



日野  
多摩  
稲城

# 地区保護司会だより

第67号



多摩市の川 (乞田川)

## — ご あ い さ つ —



昨年10月に多摩市の教育長に就きました千葉正法でございます。どうぞ、よろしくお申し上げます。これまで多摩市と稲城市の学校教育や教育行政に携わる中で、会長の栗井洋子様

をはじめ、多摩分区長の青木智子様、また、日野・多摩・稲城地区保護司会の先生方にはたいへんお世話になってきました。この場を借りて深謝申し上げます。

さて、私事となりますが、学校現場を離れて半年以上が経ちました。この間、多摩市においては、四月にはすべての小・中学校がコミュニティ・スクールとして出揃い、「2050年の大人づくり」をスローガンに保護者や地域の皆様と共育・共創の学校教育が新たにスタートいたしました。これまで以上に互恵関係を深めた地域の核となる学校において、SDGsのためのESD（持続可能な開発のための教育）やGIGAスクール構想などのSociety5.0を視野に入れた学びを止めることなく推進していきたいと思っております。

### 多摩市教育委員会 教育長 千葉正法

しかし、一方で感染予防から学校や地域の行事が縮小を余儀なくされ、お互いの顔が見える関係が希薄になってしまおうという危惧もあります。また、子どもを取り巻く健全育成の状況にも、感染症や国際情勢などが影を落としています。自分らしく生きることや大人になることは、いまの子どもにとっては難題です。さまざまな支援や援助が必要になっています。

そうした現実から、管下の学校にはいわゆる「見えない貧困」や「ヤングケアラー」、いじめや虐待などの実態を子どもの視点からも把握した上で、さまざまな人や組織と連携した支援を重視するよう指導をしています。「地域は屋根のない学校」です。青少年が安心して育つ環境をつくるのは大人の責任と考え、その責任をいまどう果たすのかがすべての大人にも繰り返しかけられているものと感じています。「困った子どもは、困っている子ども」という認識をもって、大人同士がつかない手を離すことなく、あらためて力を入れて握り合い、目の前にある課題や問題に立ち向かっていく覚悟です。

# 令和4年度 第24回定期総会開催

- ▶ 期日 4月20日(水)
- ▶ 会場 稲城市中央文化センターホール

令和4年度の定期総会は新型コロナウイルス感染症対策として全員マスクを装着・検温・手指消毒等感染予防に十分配慮し開催いたしました。司会の青木智子副会長より総会成立の報告、物故者への全員黙祷の後、鹿島正二副会長の開会の言葉、栗井洋子会長の挨拶、来賓の紹介と続き、議長に中村洋一氏が選任され議事に入りました。議案6件と報告事項すべて異議なく承認・可決されました。その後、藤井淑子東京保護観察所立川支部長、大坪冬彦日野市長、阿部裕行多摩市長、高橋勝浩稲城市長より祝辞を頂きました。また、日野・多摩・稲城の三市担当職員11名の紹介が行われました。

最後に大須賀良子副会長の言葉により閉会となりました。その後恒例により、来賓も含めた全員の集合写真を撮影し終了致しました。



## ご来賓

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| 東京保護観察所 立川支部長       | 藤井 淑子 様 |
| 東京保護観察所 立川支部主任保護観察官 | 西尾その子 様 |
| 日野市長                | 大坪 冬彦 様 |
| 多摩市長                | 阿部 裕行 様 |
| 稲城市長                | 高橋 勝浩 様 |
| 多摩中央警察署 生活安全課少年1係長  | 布施沙也佳 様 |
| 日野・多摩・稲城地区更生保護女性会会長 | 関戸 良 様  |
| 日野・多摩・稲城地区桐友会会長     | 佐伯 進 様  |

## 令和4年度 役員(理事)・専門部・分区構成

○役員(理事:23人)

令和4年4月1日現在

日野分区(9人)	大須賀良子	土方 三男	水野 京子	谷 和彦	石川ちづ子	須崎 勝政	川久保和壽	廣澤 伸幸	出沼恵美子
多摩分区(8人)	土谷 纒美	三枝 玲子	杉江 利行	青木 智子	近藤 一美	川井 博之	佐倉 英明	持田 幸子	
稲城分区(6人)	栗井 洋子	鹿島 正二	馬場 房義	高木 伸二	松浦 昇	唐木 洋子			

- 会長:栗井 洋子    ○副会長:鹿島 正二    青木 智子    大須賀良子  
 ○監事:篠崎 誠一    土方喜久弘    ○専門部(会員数:73人)

	総務部 22人	研修部 15人	地活部 19人	広報部 17人
会長	栗井 洋子			
副会長	大須賀良子 (日野分区長兼務)			
〃	青木 智子 (多摩分区長兼務)			
〃	鹿島 正二 (稲城分区長兼務)			
監事	土方喜久弘			
〃	篠崎 誠一			
センター長	土方 三男			
会会計	持田 幸子 (財務)			
〃	川久保和壽 (出納・交通費)			
会書記	廣澤 伸幸			
部長	高木 伸二	石川ちづ子	馬場 房義	佐倉 英明
副部長	川井 博之	杉江 利行	唐木 洋子	近藤 一美
書記	出沼恵美子	土谷 纒美	水野 京子	須崎 勝政
	中村 真琴 (日野分区書記)	西川 毅	戸丸 久恵	澤田 研二
	伊野 直美 (日野分区会計)	渡邊 力	飯島 文彦	紀 初子
	高木 禎信 (多摩分区書記)	山口 慶隆	井上 裕由	坂井 厚彦
	津守 範学 (多摩分区会計)	芝田晴一朗	金子 晃久	角田 政信
	庚塚 克子 (稲城分区書記)	尾又 孝行	檜崎 喜子	内山 晃次
	池田 教秀 (稲城分区会計)	根岸 瑞代	降矢 英文	粕谷 静男
	大坪 冬彦 (日野市長)			佐藤 和子
	阿部 裕行 (多摩市長)			
	高橋 勝浩 (稲城市長)			
			芦川 正雄	松本ちづ子
			會田 洋子	中村 洋一
			渡邊 幸子	松永 健
			山上 貴久	福島美由紀
			本多英二郎	熊谷 弘
			眞木 定義	関 裕子
			加藤 晃章	
				澤田 研二
				松原 一郎
				福島 幹男
				萩原 豊子
				川島 保之
				山田 英二
				遠藤 明子
				大塚美千代

○サポートセンター企画調整保護司(9人)

土谷 纒美	土方 三男	西川 毅	高木 伸二	唐木 洋子
佐倉 英明	持田 幸子	廣澤 伸幸	出沼恵美子	

○社会貢献活動担当保護司(3人)

三枝 玲子 (多摩副分区長)	谷 和彦 (日野副分区長)
馬場 房義 (地活部長)	

○分区

会員数	分区長	副分区長	書記	会計	会計監査
日野分区27人	大須賀良子	谷 和彦	中村 真琴	伊野 直美	會田 洋子
多摩分区26人	青木 智子	三枝 玲子	高木 禎信	津守 範学	紀 初子
稲城分区20人	鹿島 正二	松浦 昇	庚塚 克子	池田 教秀	川島 保之

## 令和4年度 第72回 “社会を明るくする運動”

日野分区 分区長 大須賀 良子

市長が推進委員長となり、7月9日〔土〕10時より、日野駅・豊田駅・高幡不動駅周辺で街頭広報活動を行います。

7月の強調月間中、市庁舎に懸垂幕の掲揚、公用車にペンギンマークほごちゃんステッカー貼り付け、市内中学2年生対象の出前授業【更生保護・犯罪予防・保護司等について】、小中学校への作文コンテストの応募の呼びかけ、「社会を明るくする運動」のぼり旗・ポールの配布、「広報ひの」7月1日号への掲載、市役所市民ホールにて保護司の更生保護活動のパネル展示、協力団体への社明のリーフレット等を配布。

多摩分区 分区長 青木 智子

- ① 聖蹟桜ヶ丘駅、多摩センター駅、永山駅周辺での街頭啓発活動（7月1日）  
（コロナ感染拡大防止の観点から規模縮小）
- ② 市内中学2年生全員に啓発グッズと社明チラシを配布
- ③ 市内小中学校26校に社明作文のコンテストへの応募依頼
- ④ 第2回多摩市社会を明るくする運動作文コンテスト表彰式開催
- ⑤ 多摩分区保護司編集のDVD「社明啓発活動について」を使用しての中学生を対象とする授業
- ⑥ 懸垂幕、横断幕、幟旗の設置
- ⑦ たま広報（7月5日号）に記事掲載

稲城分区 分区長 鹿島 正二

本年度は3年ぶりに強調月間初日の7月1日（金）早朝7時から市内の駅頭・街頭（JR3駅・京王線3駅・平尾バス停の計7ヶ所）で一斉に広報活動を実施します。実施には制限がありましたので当地区保護司、更生保護女性会、関連機関の参加のみで実施します。中学生には別途、朝礼で保護司から社明活動の意義について話をするようにしました。又、市長と教育長には分担して駅頭を回り、社明活動の意義について話をしてもらいます。さらに7月中旬にはジャイアンツ球場の電光掲示板に社明のPRをする予定です。

## 東京保護観察所立川支部 新担当保護観察官のご挨拶 （日野・稲城地区担当）



主任保護観察官 西尾 その子

本年度、日野及び稲城分区を担当致します西尾と申します。どうぞ、よろしくお願い致します。緊急事態宣言が最初に発令された令和2年4月に関東地方更生保護委員会から立川支部に転任し、今年で3年目となります。前任の地区では、コロナの影響で総会や定例研修を実施できませんでしたが、日野・多摩・稲城地区では定期総会にお招きいただき、皆様方に直接ご挨拶でき、大変嬉しく感じました。

さて、タンポポは花を終えると綿帽子となり、種を飛ばすように見えますが、実は花が終わると、一度地面に横たわるところを御存知でしょうか。まるで枯れたように見えるこの時期に綿帽子を育て、ムクムクと起き上がり、風を受けやすいよう周りの花より高く茎を伸ばし、種を飛ばすのです。枯れたように見える時期こそ、成長の時です。タンポポをイメージし、先生方と共に対象者を支えたいと思います。

## 祝 澤田 研二氏 藍綬褒章受章祝賀会

澤田 研二氏の藍綬褒章受章祝賀会が令和4年4月24日（日）に京王プラザホテル多摩にて東京都保護司会連合会森久保会長、三市長をはじめとしたご来賓、地区保護司会員、友知人など107名のご出席で盛大に開催されました。

最初に澤田 研二氏と奥様が歌手の沢田 研二の「勝手にしやがれ」の曲で入場。会場全体割れんばかりの拍手に包まれました。また、ご来賓の祝辞のなかで日野市議会議員、保護司の活動だけでなく様々なボランティア活動や野球チームの取り組みなどが紹介されたことが印象的なことでした。

式典第一部の受章者謝辞では、『自分自身の心構えとして「恐れず・怒らず・媚びいらず」を心に据えて対応すれば心配いらないと家族にも伝え、以降20数年の活動になります。皆さんのおかげ様を持ちまして褒章をいただくことができました。今後とも、よろしくお願い致します』とご挨拶され、ご出席者の皆さんの祝福に包まれました。（総務部）



# 第71回 「社会を明るくする運動」

## 佳作 許される犯罪とは？

多摩市立鶴牧中学校 大西 妃咲

私は許される犯罪はないと思っています。犯罪には必ず被害者がいます。その被害者が「許す」と言えば許されるのだろうか。もちろん、罪を反省し、被害者に謝罪し、刑を務めあげれば、結果被害者から「許す」となることもあるかもしれません。でも、許されない犯罪と許される犯罪の区別をする事は私には出来ないと思います。犯罪を犯すという事は、「許される」「許されない」ではなく、どの犯罪においても許されるべきではないと思うからです。

今回の話の中で「お帰りの気持ちをもつ」という言葉を何度も聞きました。犯罪を犯した人に対して、活動されている事は素晴らしい事です。ただこれも私にはその気持ちを持つことはとても難かしいと感じました。もちろんその気持ちを持ち、受け入れてくれる人がいれば、その人はもう一度犯罪を犯さないかもしれない。その意味では、とても大切な言葉なんだと感じました。だからこそ、この活動をされている方たちに対して私は誰にでも出来る事ではないと思いました。

私が十四歳という歳になって、特に深く犯罪と年齢を重ね合わせていませんでした。今回の話からこの十四歳が大事な年齢であると分かりました。大きな犯罪も小さな犯罪もあります。小さい頃は何気なく言ってしまった相手を傷つける言葉も「ごめんね」で仲直り出来たことも、今この年齢になり、「ごめんね」では済ませられない事があると感じます。それは年齢が関わっているからだと思います。自分の中では小さな事でも、受ける相手にとってはとても大きな事にもなるという事。もちろん、犯罪を意識しているわけではありませんが、どんな時にも被害

者、受ける相手の気持ちがいかに大事なのかを考えさせられました。

十四歳になり、まだまだ自分の責任を自分で解決する事は難しいかもしれません。ですが、法律の中では十四歳は刑罰を受ける年齢になります。だからこそ気をつけなければいけない、という事ではありませんが、十四歳になり自分の責任がこれからはとても大事なんだと思いました。

犯罪が減る社会。とても大事な事ですが、とても難しい事だと思います。

生きていく中で不満は誰にでもあります。ただその不満をどのように消化していくのかがとても大事だと思います。例えば、不満を聞いてくれる人がいる、その不満と一緒に共感し、嘆いてくれる人がいる。それだけでも犯罪は減ると思っています。

人と関わりがあるから犯罪もおきますが、人との関わりで減る犯罪も沢山あるのではないかと思います。自分の気持ちを抑え、溜め込むのではなく、うまく自分の気持ちを整理する事ができ、また自分に対して寄り添ってくれる人がいる、話を聞いて一緒に考えてくれる人がいる事が犯罪を減らす事に繋がるのではないかと思います。自分にもそうあってほしいように、私も誰かに対してそうありたいと思いました。

「許す」とはとても難しい事です。もちろん簡単な事でもありません。ですが、誰かの寄り添いがあれば罪を犯してしまった人が反省し、「許される」為に生活をする、またそれを近くで見守ってくれる人がいる。人との繋がりの中で、犯罪を減らし、再犯を減らす事に繋がっていくのだと思いました。

# 作文コンテスト

## 東京都推進委員会より 優秀作品に選ばれた作文

### 佳作 犯罪のない社会のために

多摩市立多摩永山中学校 塚野 渚

非行、犯罪、と聞いて良く思う人は少なくともいないだろう。だが、それを自分の事情だけで行動してしまう人はこの社会に少なからずいる。なぜ常識に背を向けるようなことが簡単にできるのか。その原因の一つに周りの環境がその人にとってどのような場所であるかが大切だ。ニュースなどでも犯行をした子は虐待を受けていたり、交友関係がうまくいっていなかったりなどの環境が反映していることがある。特に私のような年頃になると様々な悩み、不安などをもつ子が多い。その悩みや不安があるときに近くにすぐ相談できる大人、又は友人がいるかいないかでは大きく違う。私も一度、周りの環境で悩まされていた子の相談を受けたことがある。その子が相談中「もう全部がいやだな。つらいな。」と口にした。私に勇気を出して「つらい」と言ってくれたことで、どれだけ周りの人が安心、そしておちつく場所をつくってあげるのがとても大切なのか学んだ。もしそのまま一人で悩みを隠し抱え込んでしまっていたら…と考えるとその子にとって相談できる友達でいて良かったと思う。これとは違って、反抗期の時期などに万引きをしてしまうこともよくあるケースの一つにある。万引きを防ぐために万引きをさせない店、万引きをしない自分をつくることも

とめられる。万引きをしない自分をつくるとは、自分でお金の管理をしたり、なりたい自分を目にする事だ。そうすることで自分に必要だと思うことなどの判断ができるようになると思う。

また、万引きなどの犯罪をしてしまった人の立ち直りには周りの人が手をさしのべて居場所をつくってあげる社会にしていくことが大事だ。「立ち直り」という言葉を聞いて他人事として捉えるのではなく自分事として受け止め立ち直りに力をかけてあげることが犯罪や非行のない社会への第一歩となると思う。

犯罪、非行のない社会をつくるために周りの人が居場所をつくってあげること、そして自分が犯罪はいけないこと、絶対にしないという意志をもつことが明るい社会へのスタートになることが大切なので、自分も明るい社会へしっかりと貢献したい。



## 新任のご挨拶 ご活躍を期待します

令和4年5月25日委嘱



多摩分区 <sup>いの まさる</sup> **伊野 傑** (研修部)

近隣の保護司経験者の方から保護司のお話があり後日、青木多摩分区長様と2人で来訪され説明を一通り受け不安の門出となりますが、真摯に向き合っていきたいと思えます。

過去に保護司の活動で多摩センターパレードの際に、幾度か多摩、稲城安全協会として参加したこともあります。

これから保護司として活動していく上で先輩方の御指導頂きながら微力ではございますが信頼される保護司になれるよう日々色々な意見を聞き知識を得、頑張っていきたいと思えますので宜しくお願い致します。

### 表紙写真の説明 — 多摩市の川 —

乞田川は多摩市を流れる一級河川。多摩川水系の支流で多摩市鶴牧西公園に源を発し、多摩市連光寺付近で大栗川に合流する。多摩市永山地区から熊野橋までの遊歩道は多摩市の「歴史と文化の散歩道」のコースになっているほか、中・下流域はコンクリート護岸の傾斜がとりわけ緩く綺麗に仕上げられている。多摩ニュータウン通りに沿って流れる乞田川の両側には、約3kmにわたり500本以上の桜が咲き誇る。桜の季節には川の両側に提灯が下がり夜の桜鑑賞も楽しめる。遠く先まで続く桜並木の景色は圧巻の美しさであり、多摩市の桜の名所の一つとなっている。(写真提供：多摩市)

### 今年度の広報部員

〈部長〉佐倉 英明 〈副部長〉近藤 一美 〈書記〉須崎 勝政  
澤田 研二 松原 一郎 紀 初子 福島 幹男 坂井 厚彦  
荻原 豊子 角田 政信 川島 保之 内山 晃次 山田 英二  
粕谷 静男 遠藤 明子 佐藤 和子 大塚 美千代

### お詫びと訂正

66号2ページ下段、被頭彰者一覧表「関東地方更生保護委員会委員長表彰」の欄に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。

誤：渡部 力 → 正：渡邊 力

令和4年5月25日委嘱



多摩分区 <sup>わたなべ のぶこ</sup> **渡邊 信子** (研修部)

私は12年間、地域の自治会活動を行ってまいりました。地域の繋がりを大切にと日々生活する中で今回、ご縁があり保護司にお声かけいただきました。

私にとって保護司とはテレビドラマなどで聞き及んだ程度であり、お受けするかどうか大変悩みました。果たして私に出来るのだろうか？悩みましたが、自治会活動の中、コロナ禍における地域のつながりの重要性を痛感してきたこと、また、年齢制限もあることから、今回お受けすることを決めました。

今までの経験を活かしながら、お相手の気持ちを汲み、支えるお手伝いをして、お互いに成長出来ればと思います。大変気が引き締まる思いでおります。どうぞよろしくお願いいたします。

### 編集後記

新型コロナへの政策は徐々に“ウイズコロナ”に移っています。又、ロシアのウクライナへの軍事侵攻で世界中でエネルギー価格が高騰、食品等の相次ぐ値上げが我々の生活にさまざまな影響を及ぼしています。コロナが早く収まり、ウクライナでの戦争の終結が何よりも望まれます。

さて、本紙67号は6ページで編集されております。1ページ目には、今年度の表紙写真テーマ「川」より多摩川に注ぎ込む小さな川の写真と、多摩市教育長より巻頭言を寄稿いただき、掲載しました。

4・5ページは、昨年度「社会を明るくする運動」作文コンテストに応募された作品の中で、東京都推進委員会より「佳作」に選ばれた作品を載せました。今年度も多くの社明作文コンテストへの応募を期待しております。

### ■ サポートセンター百草台

〒191-0033 日野市百草999番地  
電話 042-593-0950 FAX 042-506-5474  
メールアドレス：vpocentormog@true.ocn.ne.jp